高瀬川ききみる新聞 8号

地蔵盆は「路傍のお地蔵さん」の縁日・町内安全や子どもの健全育成を願います

京の「地蔵盆」……高瀬川エリアにも　こども達の歓声が……

立誠・灯籠絵ワークショップ　参加無料

8月12日(土)11時～17時
元・立誠小学校1階会議室

★高瀬川夏祭りの一環としてアーティストがこども達とオリジナル灯籠をつくります。

【お問い合わせ】京都アートカウンシル
tamatobo@gmail.com（玉川義人）

立誠・盆おどり

8月19日(土)18時30分～21時

高瀬川・灯籠流し

8月20日(日)19時～

手づくりの灯籠を、高瀬川の大黒橋から正面橋の間で流します。

夏休み永松こども大会

8月20日(日)10時～12時
仏光寺橋たもと

高瀬川で魚つかみ2000匹放流します。
●仏光寺公園に網とバケツ持参で集合 ●幼児は保護者同伴 ●雨天決行
主催:下京少年補導委員会永松支部
【お問い合せ】075-361-4875(市原)

ワークショップ 手作り高瀬舟であそぼう!!

【日時】8月20日13時～19時
【場所】高瀬川・四季AIR
●当日随時受付　●材料費100円

【指導】鈴木康二先生
佛教大学 非常勤講師、滋賀県文化財保護協会勤務

手作りの舟を川に浮かべる体験を通じ、高瀬川の由来・役割と輸送船として活躍した高瀬舟の歴史を学びながら高瀬川をより身近に感じてもらえたらと思います。

高瀬川ききみる会　8月20日(日)10時～19時　高瀬川・四季AIRにて

船はし屋 辻誠一・ざる絵展

10時～18時　入場無料

3ページ目のレトロインタビューをご参照ください！

街頭紙芝居師 つるちゃんの紙芝居

投げ銭制 申し込み不要

12時～ 仏光寺公園 / 15時～ 四季AIR

約2万巻の紙芝居を所蔵する『塩崎おとぎ紙芝居博物館』その貴重な原画を使って口演します。水あめをなめながら、昭和の時代にタイムスリップしませんか?

高瀬川ききみる会は　高瀬川を楽しむ新聞の発行と展示や語りの会を通じ新旧住民、来訪者の交流を図ります。

【お問合せ】080-3761-3960（前川）

発行：高瀬川ききみる会　www.kikimiru.net　タイトル・若山喜正　表紙絵・小野塚佳代　デザイン・森下和真

トランシルヴァニア人の京都放浪記

Romania Vol 1 Kyoto

「蛍」(上)

こんにちは!パウロと申します。生まれ育ちは「森の彼方の国」、つまりルーマニアのトランシルヴァニア地方です。おそらく皆様はドラキュラ伯爵伝説などでおなじみでしょう。19歳に日本に来るチャンスに恵まれ、2000年以来京都に住んでおります。日本滞在は短く、日本に対する理解度も未だ浅いため、なにとぞご容赦くださいませ。

このたびコラムを頼まれ、住民の皆様が知らないことを書くなんて無理だろうとは思いつつ、このスペースをお借りして、この高瀬川を着想の原点とした私の漫言を共有させていただきたいと存じます。

5月末から7月にかけては高瀬川の辺りで蛍を楽しむことができます。実は私が蛍を初めて見たのは日本です。京都在住の経歴は、哲学の道の近く、北大路の疎水の近く、そしてこの高瀬川辺に落ち着いたのですが、今考えてみると蛍が見られる場所ばかりです。そのため、彼らを親しく感じております。

今の仕事場が十条にあるため、夏は、仕事を9時には切り上げ、自転車に乗り、十条から五条まで蛍を見ながら上がっていくのが毎日の楽しみです。

不思議なことに、蛍を見る都度に、蛍狩している輝かしい半玉さんたちの右の写真がいつも頭に浮かびます。昔から、構図がたくましいとか、質の高い色彩とか、メランコリックな雰囲気を帯びているとかなど見とれたことはありますが、長い間この写真の詳細についてほとんど知りませんでした。

明治・大正時代の日本の彩色写真はお土産品として外国人観光客の人気を集めた日本名物であったことはご周知のことだと思います。ところで、つい最近出会ったフランス人の写真家がこの一枚の謎を解いてくださったのです。

その詳細については次回に簡単に解説していきたいと思いますので、
お楽しみにしていただければと存じます。(続く)

Fireflies (part1)

Hi everyone ! My name is Paul and I come from the "Land Beyond the Forest", aka Transylvania, which most of you probably know as the home of the infamous Count Dracula from various books and movies. I arrived in Japan as a 19-year old fresh out of highschool and have lived in Kyōto since 2000. As this isn't all that much time by local standards, I am afraid that my knowledge of your country remains altogether superficial and would thus like to begin by asking for everyone's understanding before I embark on this series of short essays inspired by the Takase river and my experiences in Kyōto.

For this (and the next) issue's subject, I was inspired by one of my favorite annual events on the Takase river, which is the arrival of the fireflies towards the end of May. Usually, they can be enjoyed afterwards until the end of the rainy season. While I had never seen live fireflies before coming to Japan, it fate had it that all of the places in which I lived in Kyōto over the years have been close to firefly-watching spots - be it the Philosopher's Path in the East, the Shirakawa Canal in the North, or the Takase river where I reside now. Because of this, I feel a certain closeness to them and rejoice every year as soon as I see their pale glimmers lighting up the river's surface on the first evenings of early summer.

My current workplace is at Jūjō and, once the firefly season begins, I make it a point to finish work around 9PM and ride slowly on my bicycle up the Takase river, all the way from Jūjō to Gojō, while enjoying the mystic spectacle put forth by these tiny creatures.

Recently, whenever I think of or see the fireflies, for some reason or other, this charming photo of "hangyoku" (geishas in training) pops to mind. Ever since having seen this wonderful picture for the first time, I have been utterly taken with its masterful framing, the unrivaled accuracy of the hand-painting and its delicate - almost impossible - mix of youthful exuberance and melancholy.

While I knew that this photograph was one of many sold during the late Meiji- early Taishō eras to foreign tourists - which is why they are today mostly found in foreign collections - I knew practically nothing of the circumstances of its creation. This mystery was solved for me very recently by a French acquaintance, who is also an expert in this genre of photography. It turned out to be quite the story, in fact, and it shall be my pleasure to share it with you next time !

伝鹿嶋清兵衛「蛍狩」(年代不詳・個人蔵)

Attributed to Seibei KAJIMA, "Hunting Fireflies"
Date Unknown, Private Collection

京の水辺

京都の街に高瀬川が流れています。
水深10センチ程の浅さです。
夏の喧騒にもかき消され、
つい存在を忘れがちですが、
たえまなく流れ行く水の音は、
いつしか耳の奥深くに響いています。
街のあれやこれやを気にもしない、
静かな豊かさがあります。

文・写真　森下和真

レトロインタビュー

第8回

辻 誠一 さん

昭和18年10月生まれ。73歳。
開智小学校卒業。船はし屋店主。
日本の凧の会京都世話役。

▼寺町通の駄菓子屋「船はし屋」はいつ頃から？

生まれも育ちも寺町通。父が分家して昭和13年にこの場所で豆菓子屋を始めました。僕は次男だから就職せなあかんと大学の経営学部を出て、就職も決まってたんやけど、店を継いでいた兄が教職に就くことになり、急遽僕が。明日が初出勤という日に就職先に断って……そら、怒られましたわ。

大学卒業が昭和41年だから、僕が継いでからこれで51年目です。父の代から雑菓子も売ってましたが、僕の代になって扱う駄菓子が増え、オモチャも置くように。豆菓子や京のあんず菓子は自家製で、今でもここでつくってます。

▼カゴにも品札にも絵がありますね。

ぜんぶ僕が描いてます。もともと絵をやりたくて、昼は大学、夜は絵の勉強に産業デザイン研究所に通ってました。プラスチックの取りカゴはそのままじゃつまらないから絵やセリフを張りました。商品札も、どんな菓子かわかるように絵を付けてます。袋に貼るシールの絵も一枚一枚違うんですよ。紙袋の絵は、京都各地の子どもの行事。昔は墨で、今はペンタブレットで描いてます。

平等院の絵手紙コンテストで大賞など、いろいろ賞ももろて。絵手紙は平成22年から老人会で教えてます。老人会の会員数が補助金もらうのに数足りないしと入ったら、ついでに何か教えてくれと。勘亭(かんてい)流文字できると言ったんやけど、絵手紙の方がええと。

絵をつけた取りカゴ

▼子どもの頃は、どのようでしたか？

戦後は四条烏丸に進駐軍の本部があって、よくジープが通ってたから、「ギブ・ミー・チョコレート」ってやってましたね。

上級生が親分で下の子たちが子分。お寺さんやお墓が遊び場で、境内を遊園地みたいにしてくれたり、日曜学校みたいなことをしてくれたお寺もありました。高瀬川でも遊びましたが、今みたいにきれいやなかった。鴨川で遊ぶ方が水も多くて魚もいましたね。

▼小学校は開智ですね。

開智小学校は明治2年開校、平成4年で閉校になり洛央小学校に統合されました。先に永松が閉校になって昭和58年に開智に統合されていました。戦後、進駐軍が来て小学校が使えなくなった時に開智と永松は一緒に勉強してたし、開智と永松は仲いいんです。

開智学区のことを知っておいてもらいたいと、毎年、洛央小学校の開智・永松学区の3年生が先生と共に京都市学校歴史博物館に来られて、開智や永松の成り立ちの話をしてます。知っておいてもらわんと解らなくなります。絵を描きながら話をするから、子どもにもわかりやすいようです。

▼駄菓子屋さんを通して、時代をどう感じますか？

寺町通はお寺の関係で仏具を扱う店が多かったですね。電気店が増えたのは昭和30年代です。その頃から駄菓子屋でもポリエチレンとか包装資材に樹脂系のものが増えて、品物もポリ袋に入れて渡すようになりました。最近はアトピーとか多いし、学校でも原材料を気にします。大手メーカーでは表示するようになりました。

駄菓子屋は子どものサロン的な場所。上級生や下級生が交われて、お店の人とコミュニケーションがあります。今はコンビニが駄菓子屋さん的な商品も置いてるけど、コミュニケーションが少ないでしょ。

駄菓子屋は関東の言葉、京都では昔から一文菓子屋といいます。でも、今や歴史的文化遺産？の絶滅危惧種。少なくなったさかい、学校が休みの日に遠くから来たり、学童の先生のまとめ買いや修学旅行生やホームページ見て来る人も。

地蔵盆の時は今でも忙しくなりますが、子ども相手だけでは商売になりません。「なつかしい」をキャッチフレーズに昔のものも置いてるから大人客も多いです。パロディっぽい菓子なども大人や外人さんに受けます。

卒業制作や卒論のテーマにくる学生もいて、何人も面倒見てますよ。駄菓子屋は被写体にしやすいみたいだし、時代の流れや社会が見えますからね。あの樋口一葉も駄菓子屋と代書屋をやりながら世間を見てたんやと思います。

▼大学でも話をされているそうですね。

京都女子大から呼ばれて児童学科の1回生に毎年話をしています。駄菓子と駄菓子屋の歴史や分類から購買行動、人間関係論、マスコミ情報学、環境、犯罪、流通経済、栄養学などなど……。歴史も、いろいろ調べるのも好きやし、駄菓子屋として話せることはいくらでもあります。

▼凧の会はどのようなきっかけで？

家内が正月の番組見て、凧の会いうのんがあると。東京の本部に早速問い合わせました。それまでも店の飾りに使ってたんです。京都の同好の士に集まってもらったのが始まりで、もう42年位になります。今年は7月30日に桂川であげますが、京都での大会もこれで最後じゃないかな？もう年寄りばかりだから……。

国際的なネットワークもあって、僕の凧のコレクションは米国シアトルのドラッケン財団に譲渡してあります。

◇インタビューを終えて

開店前の準備中にお邪魔して、奥様の扶公子さんもご一緒に話を伺いました。新旧さまざまな商品で所狭しと埋め尽くされた店内と、駄菓子屋学ともいえる話の展開に我々も大興奮！お聞かせいただき、ありがとうございました！

文・堀江典子
絵・安芸早穂子

イラスト：出田幽豊

2018年6月21日(木)音楽の祭日
京都PARIS姉妹都市60年記念 清水寺世界友愛100本のトランペット
世界文化遺産での演奏にあなたも参加しませんか！

京都市が最初に提携した姉妹都市がパリ・・2018年は60年という節目を迎えます。
2018年6月21日(木)京都から「友愛」のメッセージを世界に発信する「清水寺・世界友愛 100のトランペット」は1982年フランスで生まれた「音楽の祭日・Fête de laMusique」の一環として世界120カ国・800都市と同日に開催されます。

清水寺 西門（勅使門）

開催日：2018年6月21日(木)　15時開演　於：清水寺西門(勅使門)
第1部 15時～16時　「清水寺・世界友愛100本のトランペット」
第2部 16時30分～18時　座談会「音楽は国境を超える・世界友愛の祈り」
第3部 18時～18時30分　二胡演奏　楠田名保子　(※2部3部会場は成就院)

【主催】音楽の祭日・京都/Paris 2018実行委員会　【特別協力】清水寺　【後援】在日フランス大使館、アンスティチュ・フランセ日本、朝日新聞社、毎日新聞社、産経新聞社、日本経済新聞社大阪本社、読売新聞社、KBS京都、京都新聞、毎日放送、関西テレビ、読売テレビ、公益社団法人日本演奏連盟、東京藝術大学音楽部同声会、在日フランス商工会議所、ほか　【協力】日本トランペット協会、ほか
※後援について　例年ご後援をいただいているところも予定として一部記載しています。

◎清水寺100本のトランペット音楽監督
杉木 峯夫(東京藝術大学名誉教授・愛知県立芸術大学特任教授・日本トランペット協会理事長)
◎副音楽監督
有馬純昭(元京都市交響楽団トランペット奏者・大阪国際音楽コンクール審査員)
◎実行委員：前川八洲男・渡邊ルリ子・田中理子・若山喜正・下村倫生・富家大器・木村文俊・前川正信・前田哲央・斎藤笙子

【演奏曲目(予定)】 ●G.ヴェルディ作曲 オペラ「アイーダ」より『凱旋行進曲』 ●G.ビゼー作曲 オペラ「カルメン」より『アラゴネーズ』『闘牛士の歌』 ●童謡でつづる「お寺とお坊さん」メドレー『証城寺の狸囃子』『山寺の和尚さん』『ののさまに』『夕焼け小焼け』 ●J.コズマ作曲『枯葉』～ ●ルイギ作曲『バラ色の人生』 ●京都地方民謡『竹田の子守唄』 ●L.ドリーブ作曲 バレー「コッペリア」より『ワルツ』『終曲のギャロップ』 ●松下功作曲 ミュージカル「転校生」より『この小さな地球』

詳細は清水寺・世界友愛100本のトランペットHP
http://fete-de-la-musique-japon.org
HPから参加申込書がダウンロードできます。

ポスターデザイン　松原昭俊　タイトルロゴ　園家文苑

「音楽の祭日」 Fête de la Musique
「音楽はすべての人のもの」を基本理念として世界120カ国・800都市以上で6月21日・夏至に世界同日開催され、プロの演奏も無料で聴くことができます。会場提供、アーティスト、運営スタッフすべてボランティア(無償)が原則。日本では2002年からスタート、東京、京都、大阪など関西15都市以上で開催中です。

自分時間を愉しむ場所
月1文化サロン 輪
高瀬川を眺めながら
いろいろな講座を楽しみませんか？

ギャラリー高瀬川四季AIRさんにて毎月第3水曜日(変更あり)様々なワークショップを開催しています。どなたでも参加できます。講座は単発受講可能です。また開催日には、日本茶マイスター岡村友章さんによる日本茶カフェも開催、全国の選りすぐりの日本茶を丁寧に淹れてくれます。講座に参加されない方でも、お気軽にお立ち寄りください。

8/23(水)18:00-19:30
日本茶講座
「飲み比べで日本茶の世界を知ろう!」
全国各地から集めたユニークでおいしいお茶を楽しみながら、幅広い日本茶の種類を学べる90分間。
(参加費 1,500円)

後期日程	10:30～	13:00～(1F)	13:00～(2F)	15:00～	18:00～(1F)	17:00～,21:00～(2F)
8月23日	日常書道	工作教室	ポートレート	オカリナ	日本茶講座	自力整体
9月	お休み					
10月25日	日本茶カフェ 折り紙カフェ (ハンドメイドグッズ講師作品販売)	色鉛筆画	着物リフォーム	オカリナ	石のハンコ	自力整体
11月15日		日常書道(写経)	風呂敷講座(京友禅)		京鹿の子(絞り染)ワーク	
12月20日		柳のお正月飾り	色鉛筆画		ワインセミナー	
1月17日		キャンドルカービング	日本茶講座		新春寄席	
2月21日		日常書道(お祝いののし袋)	水墨画(色紙絵)		石のハンコ	
3月14日		漆のワーク	色鉛筆画		街頭紙芝居	

※予定を変更する場合があります。 各講座1500円～3000円にて。

【お申込み・お問い合わせ】
E-mail：cultursaron.wa@gmail.com
TEL：075-351-3318 (米満)
詳しくは、ホームページ
http://takasegawa.org
または、高瀬川月一サロン『輪』で検索してください。

高瀬川・四季AIR
〒600-8024
京都市下京区
天満町456-27
四条河原町より
徒歩7分